

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690300037		
法人名	社会福祉法人 愛心会		
事業所名	グループホーム青空		
所在地	徳島県小松島市中田町字新開52番地		
自己評価作成日	平成22年9月21日	評価結果市町村受理日	平成22年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3690300037&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所内の勉強会や外部研修に積極的に参加し、全職員が認知症ケアに関する知識や技術を学びケアに活かせるよう取り組んでいる。利用者が積極的に外出できるような機会を設けている。事業所の立地条件が良い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「安心 安全 尊厳をお護りします」という基本理念を掲げ、利用者が地域の方とともに充実した生活が送れるよう支援している。事業所内の勉強会や外部研修、他事業所との交流を積極的に行い、全職員の質の確保と向上に取り組んでいる。また、課題等について、運営推進会議や職員会議で積極的に話し合い、工夫や改善を図ることでサービスの質の向上につなげている。事業所の周辺に、大型スーパーや医療機関、公園、保育所、市民センター等があり、地域資源を活かして散歩や外出、地域行事へ参加している。事業所は清潔で明るく、大きな窓のあるリビングからは四季折々の景色が眺められる。利用者と職員は、景色を楽しみながら談笑しており、一人ひとりがくつろげる居場所づくりを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、理念を共有し言葉かけや態度、安全に配慮している。職員は日々の支援の中で相互に話し合い、実践に活かしている。	地域密着型サービスの意義や役割を職員間で話し合い、理念をつくっている。利用者が安心して暮らせるように、日ごろから目標や気づき等を話し合い実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の店舗に食材を買いに行った際、店の人と話をするなどの支援を日常的に行っている。	近隣の店舗へ買い物に行ったり、地域行事に参加している。老人会やボランティア、保育所の子ども、高校生の実習生、市内の事業所等、たくさんの方の協力を得ながら積極的に地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会の会長の協力のもと、地域貢献に取り組んでいる。また、運営推進会議には老人会の会長の出席もあり、認知症について理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所運営やサービスの取り組み状況等を報告している。評価やアンケート結果等も開示し、その他の意見などを聞いてサービスの質の向上に繋げている。	運営推進会議では、外部評価の結果やサービスの取り組み状況等を報告している。参加者から率直な意見を出してもらい、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談等のある時は、電話や直接出向いて協力関係を築くよう取り組んでいる。	介護相談員の来訪や行政関係者との勉強会を行っている。事業所の取り組み状況を報告したり課題への指導を得るなど、積極的に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の自動ドアは、内部からも自由に出られるよう自動ドアのスイッチをドア中央部に付け替えた。言葉による拘束についても話し合っている。	玄関の施錠等、身体拘束について運営推進会議や職員ミーティングで話し合っている。工夫やアイデアを出し合い、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、日ごろの支援の中で身体暴力や言葉の暴力がないかについて相互に気をつけ合い、勉強会なども開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	冊子を用いて成年後見制度について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には時間をかけて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、日ごろから利用者や家族の要望等を聞く機会を設けている。苦情相談窓口のポスターを掲示したり、意見箱を設置している。	重要事項説明書に相談窓口を明示し、利用者や家族に説明している。日ごろから、利用者や家族に声かけし、要望を聞く機会を設けている。運営推進会議や年2回の家族会議でも要望や意見を聞き、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから、職員の要望や意見等に耳を傾け、実現可能なことは反映させ、サービスの質の向上に取り組んでいる。	管理者は、朝礼やミーティング等の際に、職員に問いかけて意見を聞いている。職員は積極的に提案し、日ごろのケアに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、週1回、現場に来て勤務状況等の把握に努めている。年2回、健康診断を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ積極的に参加できるよう(新人も含めて)取り組んでいる。内部研修は業務終了後に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の管理者にも、運営推進会議に出席してもらい、相互のサービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握するようにしている。サービス開始時には、慣れない場所での生活に不安があることを理解し、本人の不安を受け止めて、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時に家族の思いや要望などを聞き、事業所としてどこまで対応できるかを説明している。また、面会に来られた際にも、気づいたことなどについて話しあうように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況、思いを確認し、本人にとってどのような支援が必要か見極めてサービスの利用に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日ごろのいろいろな出来事に共感して、本人が安心して過ごせるように支援を行っている。また、楽しく日常生活を過ごすことを共有できるように関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、青空通信と生活の様子をお知らせする手紙を送付している。面会時にはホールで一緒に話し、家族との時間を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用している馴染みの美容室に行き、カットや毛染めなどを行っている。	美容室や近隣の店舗へ出かけたり、地域の行事へ参加している。また、墓参りや馴染みの場所へドライブに行ったり、家族の来訪を呼びかけるなど、人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握して、席替えをしたり、レクリエーション等に楽しく参加できるよう雰囲気づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方(他事業所や入院)のお見舞いに行ったり、近況を聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく利用者一人ひとりの思いや意向等をお聞きしているが、本人が意向を伝えられない時は家族等に聞き本人本位に検討している。	職員は、アセスメント等で利用者の思いを把握している。また、日ごろの会話や表情、態度から思いや意向を把握し、申し送り簿に記録したり職員間で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや本人との日ごろの会話のなかから、どのような生活をしてきたのか等を把握し、本人を理解するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日ごろの生活のなかで、利用者一人ひとりの心身状態を把握し、できることとできないことを見極め、本人の不利益とならないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の思い、意見を聞き、計画に反映させている。本人からの意見を聞けない時は、本人にとってどんな支援が必要なのかを検討し計画を作成している。	本人の要望や思い、家族の意見を聞いて、介護計画に反映させている。全職員で、意見交換やモニタリングを行い、現状に応じた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状況が一目でわかるように、個別記録に記載している。また、日ごろの様子がわかるように、日誌やケア記録に記載して、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に応じて話し合いを重ね、必要な支援があれば柔軟に対応して満足してもらえるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーやボランティア、月2回の介護相談員の来訪等があり、話し相手になってくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師を主治医とする時には、本人や家族の同意を得て納得していた上で、本人の不利益にならないように対応している。	本人や家族の思いを大切に、希望するかかりつけ医を受診できるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日ごろの生活の中で、常に利用者の状態を把握して変化があればそのつど管理者や看護師に報告している。管理者や看護師が不在の時や緊急時にはマニュアルにそって対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を提供している。また、事業所に戻るのが困難な場合には、主治医と相談し本人や家族の不安が無いように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の方針については、入居契約の際に事業所の対応を説明している。長期入居の方についても説明している。	重度化した場合の看取りの指針を作成し、利用者や家族等に説明して方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練の際には、AEDや人形を使用し、救急救命訓練を実施している。事故発生に備え、マニュアルを整備している。年1回、消防署の協力のもと訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には、隣接する協力医療機関やケアハウスと連携できる体制を構築している。2か月に1回、利用者も参加して夜間を想定した訓練を実施している。	2か月に1回、利用者や職員が参加して避難訓練を行っている。年1回、市消防署の指導のもと、防災訓練を行い、市の防災救急講習にも参加するなどして災害時の対応を身に付けている。運営推進会議に地元消防団員に参加してもらい、災害時に備えた体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの入浴や排泄時の言葉かけに配慮している。また、職員間でプライバシーや個人情報の守秘義務について話し合っている。	日ごろの気づきの中で常に話し合い、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。職員の採用時や研修会等でも話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの気持ちを反映できるような場面づくりをしている。意思表示の困難な方には、表情や反応を見て思いを汲み取るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や行事がある時には、スタッフの都合で入浴のタイミングなどを決めていることもあるが、利用者一人ひとりの体調や気分になるべく配慮しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時等には、本人とともに着ていく洋服を決めている。また、なじみの美容室へ行き、おしゃれ染めなどを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とともに、食材の買い出しや近くの魚屋さんに発注した魚を取りに行き、昼食や夕食の食材であることを伝えている。配膳の準備等も手伝ってもらっている。	利用者とともに食材の買い物や配膳等を行っている。食前にメニューの説明をする等、職員と一緒にテーブルを囲み、食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量をチェックし把握している。利用者一人ひとりに合わせた食事量にしている。なるべく、自分で食べてもらっているが、状況により一部介助も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけを行い、見守りや一部介助が必要な方には、本人の状態に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により定期的にトイレ誘導を行っている。また、本人の動作等からトイレのサインをキャッチして誘導等を行っている。	チェック表の活用や習慣・動作等から排泄サインを察知し、誘導を行ってトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により、毎日排便の確認を行っている。緩下剤の必要な際には使用を調整している。食事には野菜や牛乳、ヨーグルトなども取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中は、なるべく本人の希望にそって入ってもらっている。入浴中は会話を楽しみながら入っており、湯加減なども利用者一人ひとりの好みに合わせている。	利用者の生活習慣や希望にそって、入浴を支援している。入浴を好まない方には、家族の協力を得ながら一人ひとりに応じて支援し、利用者と職員が会話をしながら入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室温度(夏冬場)の調節や就寝前のトイレ誘導等を行い、ゆっくりと休めるように支援している。冬場、希望者は湯たんぽ等を使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬情報を1階と2階(ホール)のスタッフルームに設置してあり、いつでも必要な情報を確認できるようにしている。日ごろの生活の中で身体状態の変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの能力に応じて、その人にあつた役割を気持ちよく担ってもらえるように支援している。職員は無理強いをせずに支援している。ホールの椅子や廊下の手すりなどを拭いてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のゴミ出し場にゴミを出しに行った時に近くを散歩している。また、梅や桜、コスモス、菊を鑑賞するなど、季節に応じた外出を支援している。外食の支援も行っている。	天気のよい日は近隣を散歩したり、事業所前でラジオ体操をするなどして、利用者全員が戸外に出られるよう支援している。梅や桜コスモス等の花見や外食など、季節に応じた外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭の管理を希望する人は、自分で持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1階の公衆電話から家族に電話をかけている人もいる。自分で電話をかけられない人には、職員が要望等を聞き、家族への電話や取り次ぎの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には植物を置いている。また、季節の花を飾ったりしている。3月にはひな人形や5月には五月人形などを飾り、季節感を出している。	玄関やトイレ、風呂、台所等、共用空間は清潔に保たれ、飾り付けや家具は利用者の使いやすいように配置されている。廊下や、居間からは地域が眺められ、くつろぎながら開放感や季節感を味わうことができ、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間は一体的な作りとなっている。設置しているソファで、食後にくつろぐ人やテレビを見ている人がいる。また、テーブルでは仲の良い利用者同士が話している。時折、ソファの位置を変えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたもの(鏡台やテレビ、カレンダーなど)を持ち込み使用している。	居室は明るく眺めがよい。利用者は、筆筒や写真、テレビ、ラジオ、時計、手作りカレンダー、散歩時に摘んだ花等、好みの品を置いて居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは段差の無いように作っている。扉には、わかりやすいように大きな字で目印をつけている。また、トイレには手すりも設置している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、理念を共有し言葉かけや態度、安全に配慮している。職員は日々の支援の中で相互に話し合い、実践に活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の店舗に食材を買いに行った際は、店の人と話をするなどの支援を日常的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会の会長の協力のもと、地域貢献に取り組んでいる。また、運営推進会議には老人会の会長の出席もあり、認知症について理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所運営やサービスの取り組み状況等を報告している。評価やアンケート結果なども開示し、その他の意見などを聞いてサービスの質の向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談等のある時は、電話や直接出向いて協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の自動ドアは、内部からも自由に出られるよう自動ドアのスイッチをドア中央部に付け替えた。言葉による拘束についても話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、日ごろの支援の中で身体暴力や言葉の暴力がないかについて相互に気をつけ合い、勉強会なども開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者がいる。冊子を用いて、成年後見制度について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には時間をかけて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、日ごろから利用者や家族の要望等を聞く機会を設けている。苦情相談窓口のポスターを掲示したり意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから、職員の要望や意見等に耳を傾け、実現可能なことは反映させ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、週1回、現場に来て勤務状況等の把握に努めている。年2回、健康診断を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ積極的に参加できるよう(新人も含めて)取り組んでいる。内部研修は業務終了後に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の管理者にも、運営推進会議に出席してもらい、相互のサービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握するようにしている。サービス開始時には、慣れない場所での生活に不安があることを理解し、本人の不安を受け止めて信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時に家族の思いや要望などを聞き、事業所としてどこまで対応できるかを説明している。また、面会に来られた際にも、気づいたことなどについて話しあうように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況、思いを確認し、本人にとってどのような支援が必要か見極めてサービスの利用に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日ごろのいろいろな出来事に共感して、本人が安心して過ごせるように支援を行っている。また、楽しく日常生活を過ごすことを共有できるように関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、青空通信と生活の様子をお知らせする手紙を送付している。面会時にはホールで一緒に話し、家族との時間を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から利用している美容室や墓参り、入院している人へのお見舞いなど、本人の希望に応じて出かけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握して、席替えをしたり、レクリエーション等に楽しく参加できるように雰囲気づくりをしている。食事の際にホールに来ていない人があれば、声かけに行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方(他事業所や入院)のお見舞いに行ったり、近況を聞いたりしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく利用者一人ひとりの思いや意向等をお聞きしているが、本人が意向を伝えられない時は家族等に聞き本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや本人との日ごろの会話のなかから、どのような生活をしてきたのか等を把握し、本人を理解するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日ごろの生活のなかで、利用者一人ひとりの心身状態を把握し、できることとできないことを見極め、本人の不利益とならないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の思い、意見を聞き、計画に反映させている。本人からの意見を聞けない時は、本人にとってどんな支援が必要なのかを検討し計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状況が一目でわかるように、個別記録に記載している。また、日ごろの様子がわかるように、日誌やケア記録に記載して、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状態に応じて話し合いを重ね、必要な支援があれば柔軟に対応して満足してもらえるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーやボランティア、月2回の介護相談員の来訪等があり、話し相手になってくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師を主治医とする時には、本人や家族の同意を得て納得していただいた上で本人の不利益にならないように対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日ごろの生活の中で、常に利用者の状態を把握して変化があればそのつど管理者や看護師に報告している。管理者や看護師が不在の時や緊急時にはマニュアルにそって対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を提供している。また、事業所に戻るのが困難な場合には、主治医と相談し本人や家族の不安が無いように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の方針については、入居契約の際に事業所の対応を説明している。長期入居の方についても説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練の際には、AEDや人形を使用し、救急救命訓練を実施している。事故発生に備え、マニュアルを整備している。年1回、消防署の協力のもと訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には、隣接する協力医療機関やケアハウスと連携できる体制を構築している。2か月に1回、利用者も参加して夜間を想定した訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの入浴や排泄時の言葉かけに配慮している。また、職員間でプライバシーや個人情報の守秘義務について話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの気持ちを反映できるような場面づくりをしている。意思表示の困難な方には、表情や反応を見て思いを汲み取るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や行事がある時には、スタッフの都合で入浴のタイミングなどを決めていることもあるが、利用者一人ひとりの体調や気分になるべく配慮しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が、外出の時に着ていく服を迷っている時には、仲の良い利用者さんと一緒に決められるように支援している。マニキュアなども塗って外出している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とともに、食材の買い出しや近くの魚屋さんに発注した魚を取りに行き、昼食や夕食の食材であることを伝えている。配膳の準備等も手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分量をチェックし把握している。カレーやハヤシライスなどをご飯にかけるのが嫌いな利用者には別に分けて提供している。朝食にパンとコーヒーを好む人には提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけをして自分でできる人には義歯の取り外しや洗浄をしている。また、夜間には入れ歯を洗浄液につけており、見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により定期的にトイレ誘導を行っている。また、本人の動作等からトイレのサインをキャッチして誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により、毎日排便の確認を行っている。緩下剤の必要な際には使用を調整している。食事には野菜や牛乳、ヨーグルトなども取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中は、なるべく本人の希望にそって入ってもらっている。入浴中は会話を楽しみながら入っており、湯加減なども利用者一人ひとりの好みに合わせている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室温度(夏冬場)の調節や就寝前のトイレ誘導等を行い、ゆっくりと休めるように支援している。冬場、希望者は湯たんぽ等を使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬情報を1階と2階(ホール)のスタッフルームに設置しており、いつでも必要な情報を確認できるようにしている。日ごろの生活の中で身体状態の変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	拭き掃除が得意な方にはホールの椅子や廊下の手すりなどを拭いてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のゴミ出し場にゴミを出しに行った時に近くを散歩している。また、梅や桜、コスモス、菊を鑑賞するなど、季節に応じた外出を支援している。外食の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で小銭を管理できる人にはしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1階の公衆電話から電話をしている。また、年賀状づくりの支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には植物を置いている。また、季節の花を飾ったりしている。3月にはひな人形や5月には五月人形などを飾り、季節感を出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間は一体的な造りとなっている。設置しているソファに座ってテレビを見たりしている。本の好きな利用者は読んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを持ち込み使用している。写真や人形などを筆筒の上などに飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは段差の無いように作っている。扉には、わかりやすいように大きな字で目印をつけている。また、トイレには手すりも設置している。		